



# 櫻園通信 16. 平成 26 年 12 月

東京都健康長寿医療センター  
養育院・渋沢記念コーナー  
連絡先: 老年学情報センター

養育院・渋沢記念コーナーボランティア  
中村 弘(養育院を語り継ぐ会 事務局長)

## 養育院を語り継ぐ会

東京都健康長寿医療センターを利用している方々は、構内の小公園に渋沢栄一の銅像があることは、よくご存じのことと思います。その像の脇に養育院碑があります。同様の碑はこの他に都内の墓地に三か所、栃木県的那須塩原に一か所あります。この通信をかりて、これらの碑を建てるまでの話をしたいと思います。

養育院は明治五年に開設以来、首都東京の社会福祉の大きな部分を担ってきました。平成 11 年 12 月養育院廃止条例をもって廃止されるまで、127 年の歴史がありました。その歴史を見ると日本の福祉・医療の展開に大きく貢献してきています。しかし、人の記憶はだんだん薄れ、記憶を持つ人も少なくなっています。養育院の存在を後世に伝えていくことが大切と考える元職員、退職者が集まって、養育院で亡くなられ、引き取り手のない方々の合葬墓を説明する碑を建てようということになりました。そのための寄付を募ろうということになり何回もの準備会をへて、平成 17 年 7 月「養育院を語り継ぐ会」を結成しました。



本院跡碑の「養育院本院」の文字は  
渋沢栄一の墨跡を刻字したものです。  
(碑文は櫻園通信 2 号参照)

## 養育院合葬塚

景気低迷の折、寄付がどのくらい集まるか全く検討もつかないため、まず、養育院で物故した人々の葬られている東京谷中の大雄寺、了侘寺、栃木県塩原の妙雲寺、多磨霊園の養育院墓地に碑を建てることにしました。ところが、思いのほかのご芳志を戴くことができ、大山の養育院本院の渋沢栄一像のそばに、本院碑を建てる事が出来ました。さらに、2 回の講演会、養育院月報復刻版の全 30 巻も寄

### 養育院関係合葬塚

	埋葬時期	埋葬者数
大雄寺(だいおうじ)日蓮宗	明治 6	100 柱
了侘寺(りょうごんじ)天台宗	明治 6-大正 2	3,762 柱
多磨霊園 合葬塚	昭和 8-平成 19	26,450 柱+1
天王寺裏墓地(谷中)	明治 32-大正 2	
芋坂合葬墓地(谷中)	大正 3-昭和 2	多磨霊園に合葬
了侘寺納骨堂(谷中)	昭和 2-昭和 7	
妙雲寺 臨済宗	昭和 19-27	582 柱
	合計	30,895 柱
<hr/>		
大福寺 よい子の墓(船形) ※塩原の 56 名、卒園生含む		143 柱

付することが出来ました。養育院を職場として、多くの人たちのお世話をしてきた方々、春秋に香華を手向けてきた担当者達の熱い思いの結晶です。さて、この碑で何を伝えるか、碑文の起草が始まりました。議論百出でした。この通信で各地に建てられた碑を紹介させていただきますので、是非読んでいただきたいと思います。養育院を語り継ぐ会の活動は、本院碑の設置によって終わりましたが、引き続き養育院は健康長寿医療センターの養育

院・渋沢記念コーナーで語り継ぐことが出来るようになったことも嬉しいことです。会の活動は碑の設置のほか、養育院に関する一般、板橋看護学校学生向けの講演会、養育院月報復刻版の寄付などを行いました。この間、北区飛鳥山にある渋沢史料館の協力や資金の少ない中、碑の制作会社、石材店の方々にも一方ならぬ協力をいただきました。この活動を通して元養育院の職員の思いがいかにか強いものであったかを実感しました。厚く御礼申し上げます。

**養育院義葬之家 東京都台東区谷中 大雄寺(全文)**

養育院は、明治五(千八百七十二)年十月十五日に創設された。維新後急増した窮民を收容保護するため、東京府知事大久保一翁(忠寛)の諮問に対する営繕会議所の答申「救貧三策」の一策として設置されたものである。この背景には、ロシア皇子の訪日もあった。事業開始の地は、本郷加賀藩邸跡(現東京大学)の空長屋であった。その後、事業拡大のため養育院本院は東京市内を転々としたが、関東大震災により大塚から現在地の板橋に移転した。養育院設置運営の原資は、営繕会議所の共有金(松平定信により創設された七分積金が新政府に引き継がれたもの)である。

養育院の歴史は、渋沢栄一を抜きには語れない。営繕会議所は、共有金を管理し、養育院事業を含む各種の事業を行ったが、渋沢は明治七年から会議所の事業及び共有金の管理に携わり、養育院事業と関わるようになった。明治十二年には初代養育院長となり、その後亡くなるまで、五十有余年にわたり養育院長として事業の発展に力を尽くした。

養育院は、鰥(かん)寡(か)孤(こ)独(どく)の者の收容保護から始め、日本の社会福祉・医療事業に大きな足跡を残した。平成十一年十二月、東京都議会において養育院廃止条例が可決され、百二十七年にわたる歴史の幕を閉じた。

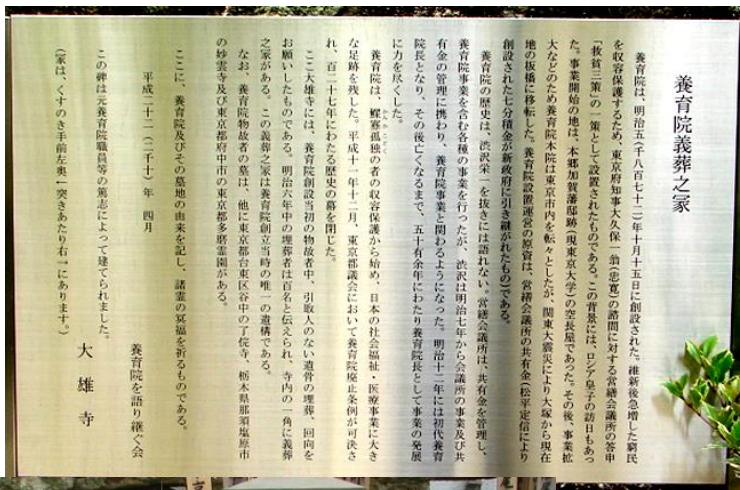
ここに大雄寺には、養育院創設当初の物故者中、引取人のない遺骨の埋葬、回向をお願いしたものである。明治六年中の埋葬者は百名と伝えられ、寺内の一角に義葬之家がある。この義葬之家は養育院創立当時の

唯一の遺構である。

なお、養育院物故者の墓は、他に東京都台東区谷中の了庵寺、栃木県那須塩原市の妙雲寺及び東京都府中市の東京都多磨霊園がある。

ここに、養育院及びその墓地の由来を記し、諸霊の冥福を祈るものである。

平成二十二(二千二十)年四月 養育院を語り継ぐ会  
この碑は元養育院職員等の篤志によって建てられました。大雄寺



東京都台東区谷中・大雄寺。  
背面の記載： 明治六年癸酉始養窮民於養育院其死者葬此

東京都養育院慰霊碑 東京都台東区谷中 了侘寺(抜粋)(前文略 大雄寺と同じ)

ここに侘寺には、養育院の物故者中、引取人のない遺骨を埋葬、回向をお願いしたものであり、明治六年末から大正二年に至る埋葬者は三千七百六十二名である。

なお、養育院物故者の墓は、他に東京都台東区谷中の大雄寺、栃木県那須塩原市の妙雲寺及び東京都府中市の東京都多磨霊園がある。

ここに、養育院及びその墓地の由来を記し、諸霊の冥福を祈るものである。

平成二十二(二十)年四月 養育院を語り継ぐ会

この碑は元養育院職員等の篤志によって建てられました。了侘寺



東京都台東区谷中・了侘(ごん)寺  
碑の設置の最中、激しい雨が降り終わると、きれいに晴れ上がり、物故者が喜んでいるようでした。



東京都養育院合葬碑 栃木県塩原 妙雲寺（抜粋）

（前文略 大雄寺と同じ）

養育院は昭和十九年、戦禍を避けるため院をあげて塩原に疎開を決定、地元の旅館を買収し、同年八月、塩原分院を開設した（龍泉閣、宮田屋を龍泉寮、宮田寮として事業開始。その後常盤寮、塩釜寮、上富士寮を順次買収。塩原分院は昭和二十一年に栃木分院と改称）。

当初は板橋本院より、老人及び盲人などを疎開させたが、戦局の悪化及び板橋本院の空襲による壊滅により、安房臨海学園、石神井学園の児童及び島嶼（とうしょ）引揚者も加わり、「養育院百年史」によれば、昭和二十年五月には養育院収容者千二百十一人のうち、六百九十四人が在籍、塩原は養育院事業の中心となった。

栃木分院廃止の昭和二十七年までのこの地における物故者は五百八十一名。妙雲寺に埋葬、回向をお願いし、昭和二十八年には養育院合葬碑を建立した。後に一名を合葬、現在は五百八十二名が眠る。

戦中、戦後の物資の不足、特に食糧事情の劣悪な状況の中での地元塩原の皆様の「ご厚情」に対し、この碑を建立するに当たり、改めて感謝の意を表するものである。

養育院は、鰥（かん）寡（か）孤（こ）独（どく）の者の收容保護から始め、日本の社会福祉・医療事業に大きな足跡を残した。平成十一年十二月、東京都議会において養育院廃止条例が可決され、百二十七年にわたる歴史の幕を閉じたが、養育院が行ってきた事業はかたちを

かえて現在も引き継がれている。

なお、養育院物故者の墓は、他に東京都台東区谷中の大雄寺、了侘寺及び東京都府中市の東京都多磨霊園がある。

ここに、養育院及びその墓地の由来を記し、諸霊の冥福を祈るものである。

平成二十二（二千十）年四月 養育院を語り継ぐ会  
この碑は元養育院職員等の篤志によって建てられました。妙雲寺



栃木県塩原・妙雲寺  
先の大戦中の疎開先の栃木分院における無縁仏のお墓です。

養育院合葬冢 東京都多磨霊園（前文略 大雄寺と同じ）

ここ多磨霊園には、昭和八年以降、養育院の物故者中、引取人のない遺骨を埋葬し、現在も供養をしている。

なお、養育院物故者の墓は、他に東京都台東区谷中の大雄寺、了侘寺及び栃木県那須塩原市の妙雲寺がある。

ここに、養育院及びその墓地の由来を記し、諸霊の冥福を祈るものである。

平成二十二（二千十）年四月 養育院を語り継ぐ会  
この碑は元養育院職員等の篤志によって建てられました。東京都福祉保健局



都立多磨霊園養育院墓地  
ここ多磨霊園には、この碑文にある養育院創設時の東京府知事、大久保一翁の墓所があります。